

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月8日

協議会名:小千谷市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通(株)	循環バス 6便×2(内外回り)=計12便/日 H30.4.1ダイヤ改正 4便×2(内外回り)=計8便/日 ※土日祝計6便/日	利用実態を分析し平成30年4月1日ダイヤ改正を実施(減便時刻調整)。※平成30年2月28日計画変更届出書提出 【利用促進取組み】 ・公共交通マップ作成全戸配布 ・市広報紙における特集掲載 ・道の駅におけるポイントサービス導入	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 経常収支率は12%であり、目標の30%を達成出来ず、前年17%も下回った。月間利用者数はH29.10~H30.3平均2,187人/月でしたが、ダイヤ改正による減便等の影響もありH30.4~H30.9平均1,495人/月となり目標の1,700人/月を下回った。H29.10~H30.9の年間平均は1,841人/月であり、目標を上回った。	これ以上の減便は利便性を低下させ利用者減少につながる。引き続き利用実態を把握し分析したうえで現状に見合った目標設定を行い(H31計画目標:収支率20%、利用者1,500人/月)、③記載の利用促進取組みを継続すると共に、行政や運行事業者のみではなく、地域懇談会での住民説明や商店街と協力し周知を図るなど、公共交通をより知ってもらうことでの利用増加に取り組む。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月8日

協議会名:	小千谷市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置し、面積は155.19km²、人口は35,995人(平成30年3月末)となっており、5年前(平成25年3月末)と比較し2,303人の減、年齢別人口比率では15歳以下が減少し、その一方で65歳以上(33.1%)が増加する少子高齢化が進んでいる。JR上越線小千谷駅から本町を軸として市域内の広範に路線バス、乗合タクシー、コミュニティバスで構成される公共交通網が広がっているが、人口減少とマイカー普及により公共交通利用者は減少を続け、特に路線バス事業の収支悪化による廃線や減便が続いているが、通院や通学、通勤など日常生活に必要不可欠な交通手段の確保が必要な状況である。平成29年4月1日に市内2つの民間病院が統合し、小千谷総合病院として郊外へ移転開院したことに伴い、バス路線等の大幅な見直しを実施した。小千谷総合病院への交通手段の確保と地域間幹線系統からの乗継、区画整理事業により住宅建設が進む若葉地区を含む国道117号沿線の公共交通空白域の解消、中心市街地の本町と郊外大型店や公共施設を結ぶことによる地域活性化などの事業効果を掲げ、東小千谷地区～西小千谷地区の市街地を横断し、小千谷総合病院及び国道117号バイパスに延伸することで、市街地から郊外を循環するフィーダー系統として運行し、幹線系統と組み合わせることにより、公共交通ネットワークを構築する。</p>